

## 木造校舎の改修工事(5)

### -キツツキ-

若木や人工林よりも老木や枯木を好むキツツキは、別荘地などでも建物に被害を与えているようで、この学校でも長年の懸案になっていた。

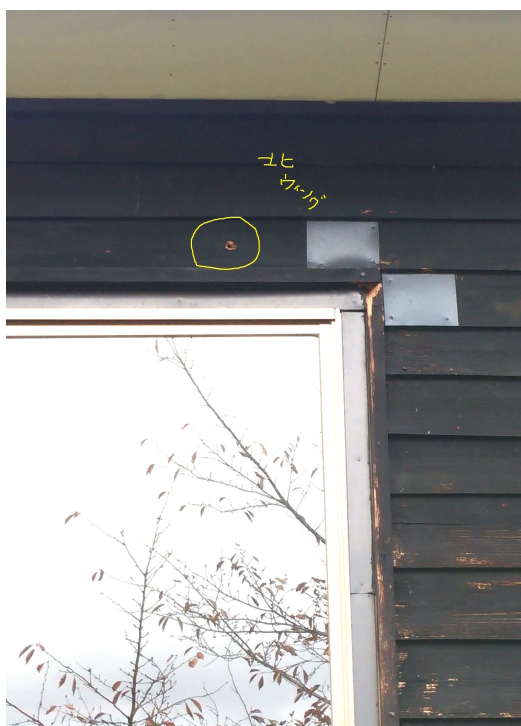


改修前の外壁  
キツツキ被害の様子

板張りの外壁にキツツキの被害、どんな対処法があるのか調べてみると幾つか方法は試みられているが、長年解決できていないだけあって、これといったものは見当たらない。試みられている対処法は、キツツキが嫌う猛禽類(鷹や梟など)の置物を置いたり、軒に網やテグスを張るなどだが、これは見た目が良くなかったり、多雪地域には向かなかったり、である。野球場での鳩の被害には忌避剤の塗布が効果を発揮しているようだが、キツツキに対しては未知数だ。しかし試してみる価値があるかもしれないと、部分的に試してみたが、効果は忌避剤からごく近い範囲に限られ、外壁全体をカバーするのは現実的でないことがわかった。

耐震・断熱改修工事に伴う外壁の修繕が終了したのが 2016 年の秋だったが、ひと月もしないうちにキツツキ被害の第一報が入った。忌避剤以外に何か方法がある

のだろうか…。そんな折、工事写真と合わせてキツツキの観察を続けておられた先生が、イグノーベル賞級とも言えるような発見をされた。カメムシを餌としているキツツキは、夏の間は鳴りを潜めているが、初冬に校舎に入り込むカメムシを追ってやって来るといふ。今年も意気揚々とやって来たキツツキたちだが、下見板を突き破った下に貼られた透湿防水紙とその下の断熱材の層を突破することができず、そこから先を諦めてしまっているというのだ。送っていただいた写真を見ると、確かに断熱材のない建物の壁にはスッポリと穴が開けられているが、断熱材が入った壁は途中棄権の感が否めない。



断熱材がない棟の外壁



断熱材施工後の外壁

この発見に喜んだのも束の間、キツツキたちは断熱施工がされていない部分を検査機関顔負けの速さで嗅ぎ分け、屋根の妻面を狙い始めた。しかしここなら内部から対応が可能とばかりに即断熱材を施工してもらい、期せずして何とか改修範囲は被害を免れたかにみえた。が、今度は庇の軒裏部分、軒天へ、イタチごっこならぬキツツキごっこが続く。軒天は地上8mを超え対処には足場が必要なことと、外壁ほどは目立たないということで目下、静観状態である。

## 追記

校舎にとっては困った鳥だが、森でのキツツキは、昆虫を食べて木を助けたり、一方では弱った古木に穴を開けて倒れやすくしたりする役割もあるという。巣穴で冬の寒さをしのぎ、木の中に潜む虫などを採れるので寒い地方でも定住ができ、ヨーロッパには何年も同じ穴で営巣するキツツキがいるという。日本のキツツキは毎年新しく穴を掘って営巣するので、木の穴を利用する動物にとっては好都合で、森の大工さんとも言われている。長い舌の先にはモリ状のギザギザがついている上、粘り気のある唾液を多量に出し、これで昆虫を引っ掛けて食べる。両足の爪と堅い尾羽根と合わせて3点で体を支え、採食や穴掘りには1秒間に20回も強烈かつ正確に叩くという。目視や打診で木の中に潜む虫を見つけ出す能力はかなり優れている。

参考：Short「世界のキツツキ」1992、世界の鳥類ハンドブック第6巻2002 文書より

(つづく)